

# 弘法さんかわら版

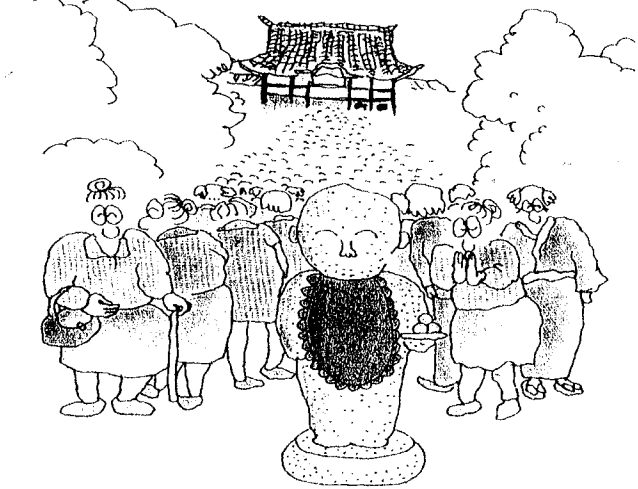
発行編集部

大塚利平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、明けましておめでとうございます。弘法さんかわら版も創刊二年目に入りました。今年もご愛読頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。さて、昨年は日泰寺誕生のいきさつなどをご紹介しました。今年も、日泰寺の誇る**日本最小の八十八ヶ所霊場**について勉強していきたいと思えます。皆さんご存知のように、**四国八十八ヶ所霊場**は弘法大師(空海)の修行場となったお寺のことです。その寺々(霊場)を巡礼することを**お遍路**と言います。



巡礼・遍路は、古くから信心深い庶民にとって憧れの旅でした。実は、四国以外にも巡礼地は全国各地に存在しています。津軽、越後、出雲など三十三ヶ所霊場のほか、十三、十七、十八、十九、二十、二十四、二十五、二十七、三十二、三十四、三十六、四十九など、巡礼地の「数」もけっこうバラエティに富んでいます。ですが、もっとも多いのが**三十三ヶ所霊場**と**八十八ヶ所霊場**です。なぜこのふたつの「数」が多いのかはよく分かりません(ご存知の方がいらつしやいましたら、ご教示ください)。

そうした中で、四国と並んで八十八ヶ所霊場を擁しているのは、**九州(九州全県)**、**篠栗(福岡県)**、**小豆島(香川県)**、**知多(愛知県)**等のほか、ご当地、**覚王山日泰寺**です。八十八ヶ所もの巡礼となれば、四国全土など相当広域に霊場が散在しているのが一般的ですが、日泰寺の霊場は何と半径数百メートルの範囲に収まっています。一日で回りきれぬ八十八ヶ所巡礼は、ここ日泰寺だけです。

各地の巡礼地はさまざまな由来で誕生しました。日泰寺の場合、弘法さん（縁日）に合わせて霊場が設置されたのか、あるいは霊場が先で、それに因んで弘法さんという縁日が開始されたのか、定かではありません。日泰寺誕生が明治三十七年であるのに対し、霊場設置と縁日開始は明治四十二年のようです。地元の方にお借りした「東山名勝」という大正時代の文献の中に、「**四国八十八ヶ所は當山境内に於ける呼物とも謂うべきである**」との記述があることを勘案すると、どうやら観光名物として意識的に設置されたもののようにです（今風に言うと、イベントでしようか）。

霊場の名前が四国とまったく同じであることも、観光名物として計画的に設置された証左と言えます。**一番札所の靈山寺**から、**八十八番札所の大窪寺**まで、四国霊場と日泰寺霊場は完全に一致しています。因みに、**知多八十八ヶ所霊場**の場合、**一番札所は曹源寺**、**八十八番札所は円通寺**と言います。知多の霊場は、既存のお寺を活用して設置されたようです。

ところで、日泰寺の霊場は周辺七ヶ所の場所に分散していま

す。これらの場所を整理した「**覚王山日泰寺の八十八ヶ所霊場と碑塔**」という資料があります。それによれば、霊場はもともと札所の番号順に並んでいたそうですが、日泰寺の本堂、霊堂、納骨堂などの新改築、周辺道路の拡幅工事等のために、全体の四割程度が当初の場所から移転したようです。その結果、現在の場所に落ち着いたのは昭和の終り（一九八〇年代）頃ということです。

なお、その資料は、地元の吉野忠夫さんと片岡正明さん（フルーツの弘法屋さんのご主人）が制作された貴重な資料です。編集部（大塚耕平事務所）に余部がありますので、ご興味がある方に差し上げます。お気軽にお問い合わせください。

平成十五年の弘法さんかわら版は、日泰寺八十八ヶ所霊場を中心に、巡礼・遍路に関する情報を皆さんにお届けします。どうぞご期待ください！

それではまた来月、お会いしましょう！

